

戦国期の大和国人 檜原氏の活躍と御所市の城郭

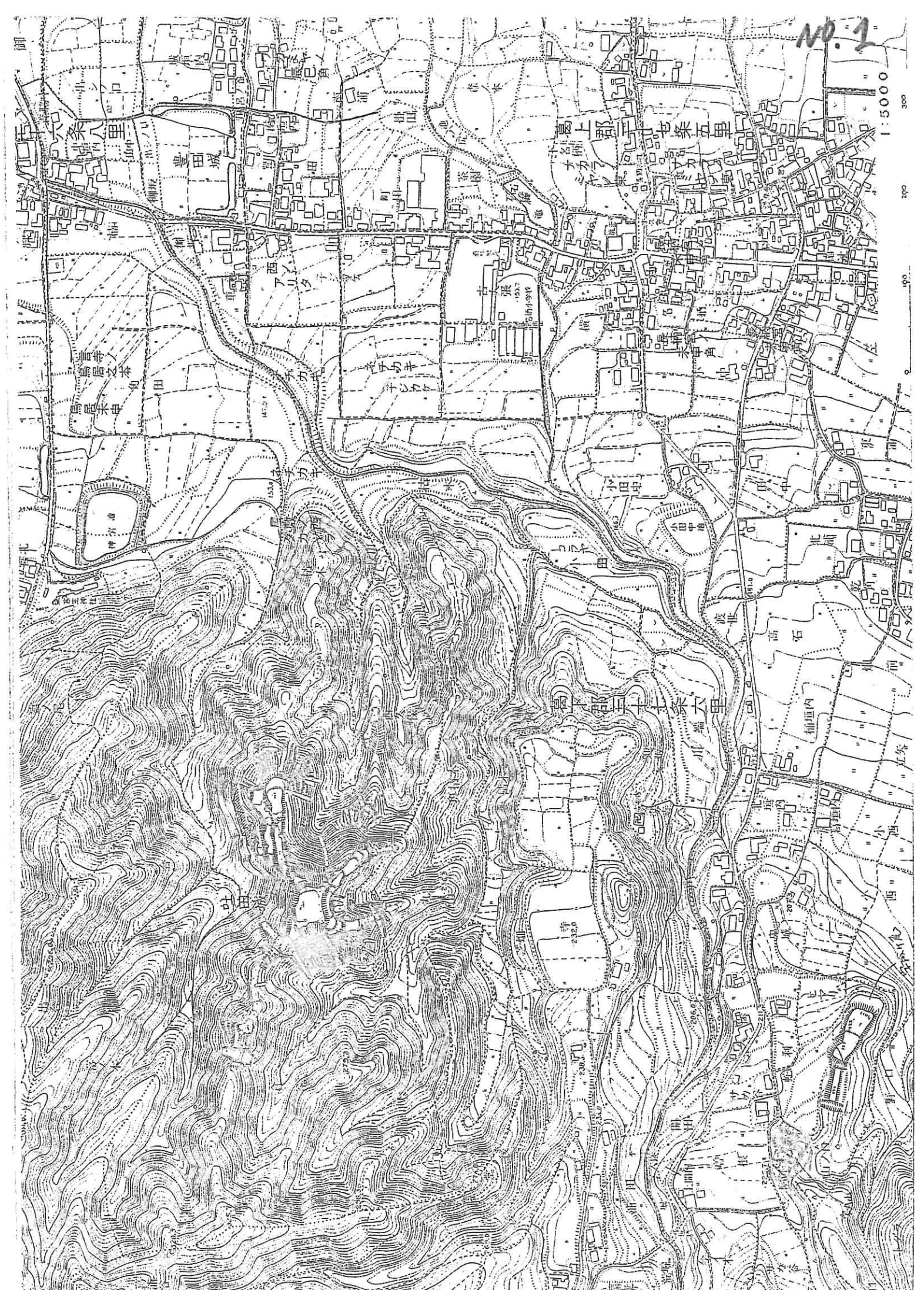
令和6年9月14日(土) 於 御所市防災交流館
栗東市教育委員会 藤岡 英礼

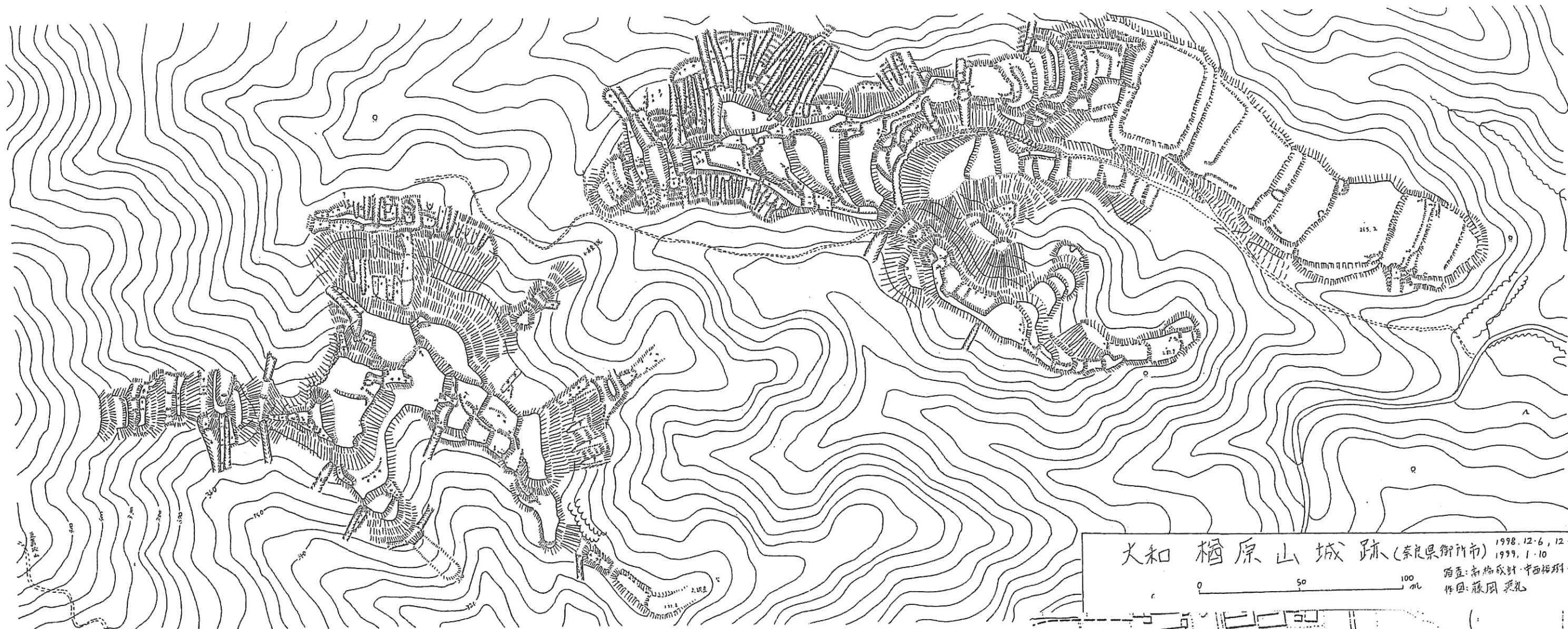
はじめに

- 1) 奈良県の城郭分布調査が終了(令和2年度)……約600カ所の城館が存在。
- 2) 関心が低い中世城郭 近世城郭(郡山城・高取城)に比べても整備・指定進まず。
↳ 関心が持続しない……財政的裏付けに欠く。 行政・民間の取り組みの拡大。
- 3) 大和における中世城郭の意義……
◎有力国人から村に至るあらゆる階層が築城主体に……その数も抜群に多い。
◎近隣諸国との動向も交えた多様な築城契機
◎中世城郭は、今につながる地域形成期の地域勢力の動向と密着！

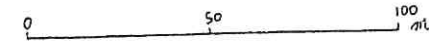
A) 檜原城と吐田城……その特徴的な縄張り！！

- 1) 縄張り図の表記と見方
- 2) 檜原城の縄張り……
◎膝下に寺院(前城・左音寺)が存在。中城と奥城で一城別郭の構造。
寺院の取り扱い～城域に含むか否か。
◎奥城から中城へ 古いタイプの連郭式山城(奥城)に、防禦ラインと駐屯地を持つ中城が入る。
↳ 大軍を收容する縄張りに変容。
↳ 防禦ラインで全体をまとめる。 横堀+短い畝状空堀群。
◎檜原城の縄張りには时期的な変化が認められる。 畝状空堀群 → 横堀の使用！
◎奥城の背後には主郭を睨むような後背施設！
- 3) 檜原平城の縄張り……
◎檜原城の膝下に丘腹を切り込んで築城。巨大な土塁。複雑な構造。集落で半壊。
◎空堀外縁を入れて約150m四方の規模にはなっていたと思われる。
↳ 吐田館よりやや大きく、筒井館・箸尾館よりやや小さいが、最有力国人に比肩。
◎根小屋……大和国では珍しい(越智氏=越智館+貝吹城)
↳ 広範囲の領域を睥睨し、拠点機能を持つ「山ノ城」とは異なる。
※筒井氏=筒井山ノ城(檜尾城)+筒井平城
十市氏=十市山ノ城(龍王山城)+十市平城
◎実質は丘城 軍事性が強く、城主の求心性が高い！
- 4) 吐田城の縄張り……
◎広い主郭だが、北東尾根側に比肩する曲輪(長い畝状空堀群を付す)。腰曲輪に土塁(横堀状)。
◎主郭の北・西・南側に短い畝状空堀群。 横堀は無いが防禦ラインを意識。 駐屯部なし。
◎北東尾根側と主郭周辺で防禦手法に変化(时期的なものか?) 一城別郭的な要素。
◎背後(葛城山系側)には、半独立的な後背施設？
- 5) 吐田館の縄張り……
◎単郭と言われるが、実は複郭。
↳ 豊田館(豊田氏は吐田氏庶子)+城垣内。西の宮戸池～法満寺周辺も要チェック！ 同名中型。
◎規模は125m四方～豊田館・城垣内は同等。宮古池以西は不明も若干小規模か？
- 6) 檜原城と吐田城の変化の背景とは……
◎根小屋の意識とは異質な性格が入る(駐屯地・軍事的変化・一城別郭など)
◎築城時期や変化の背景とは……戦国期以前から活発な軍事活動！

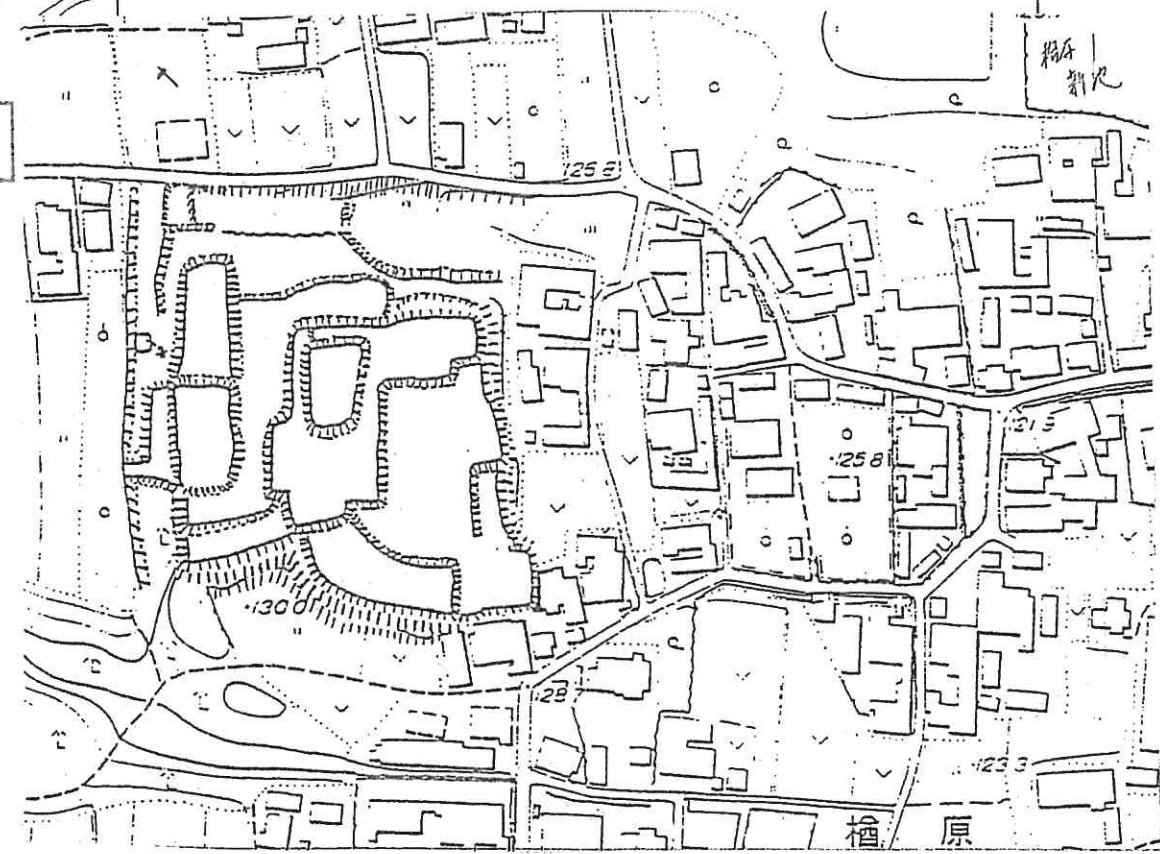


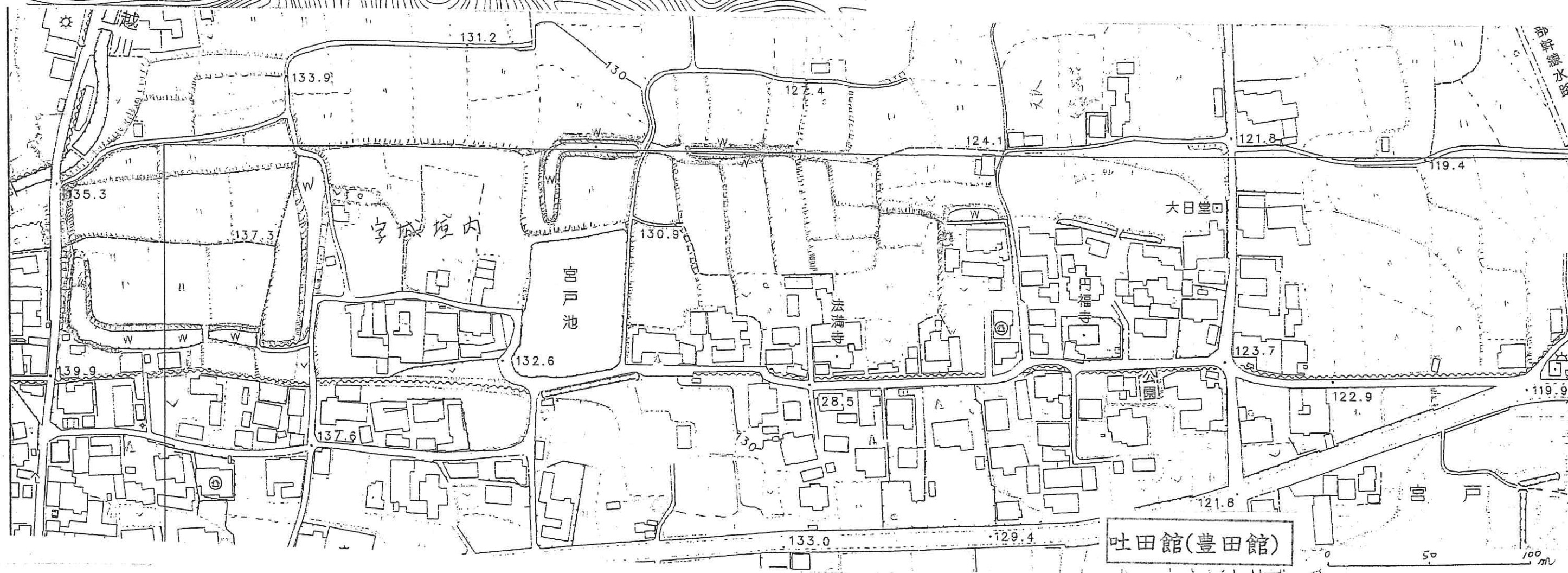
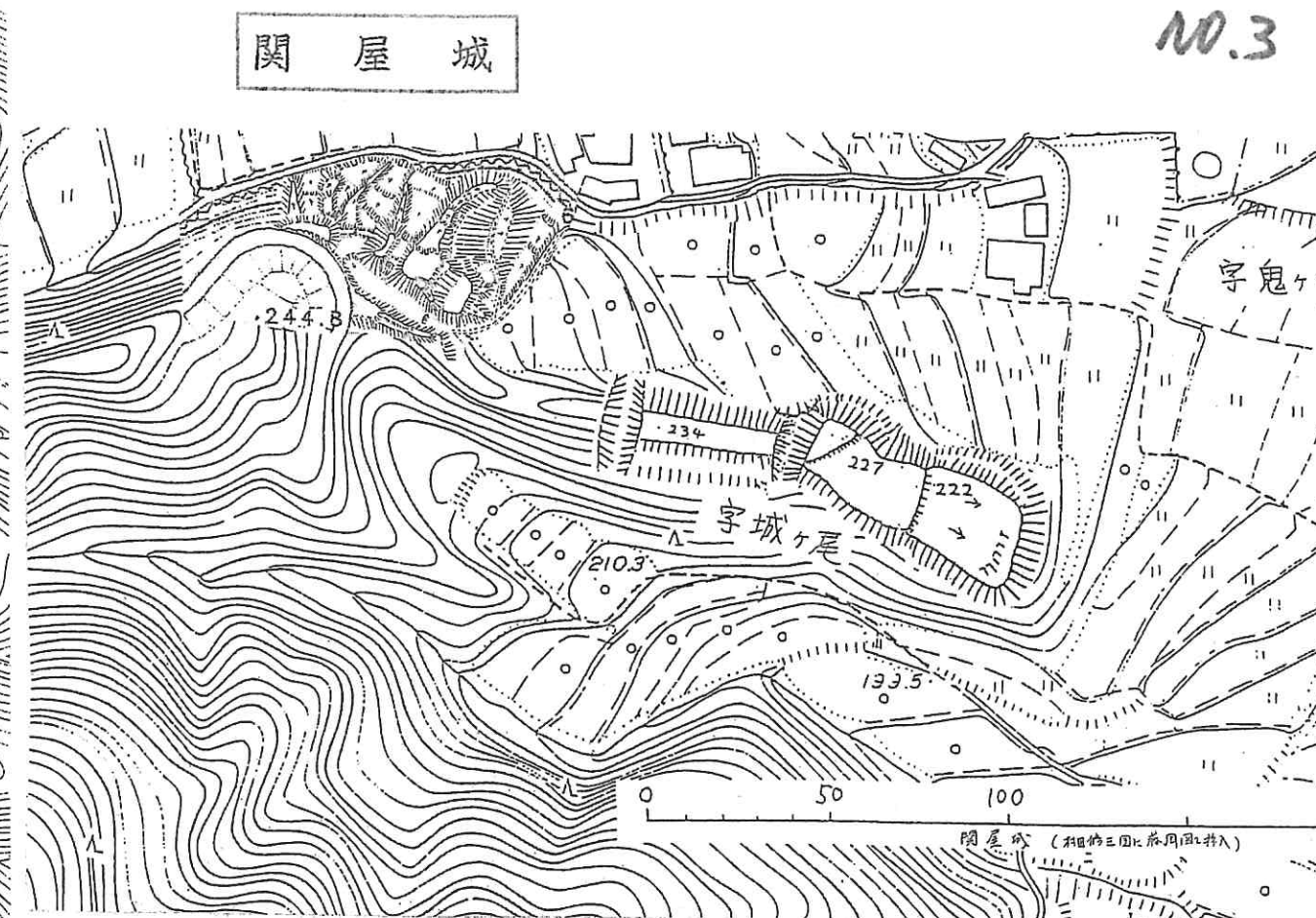
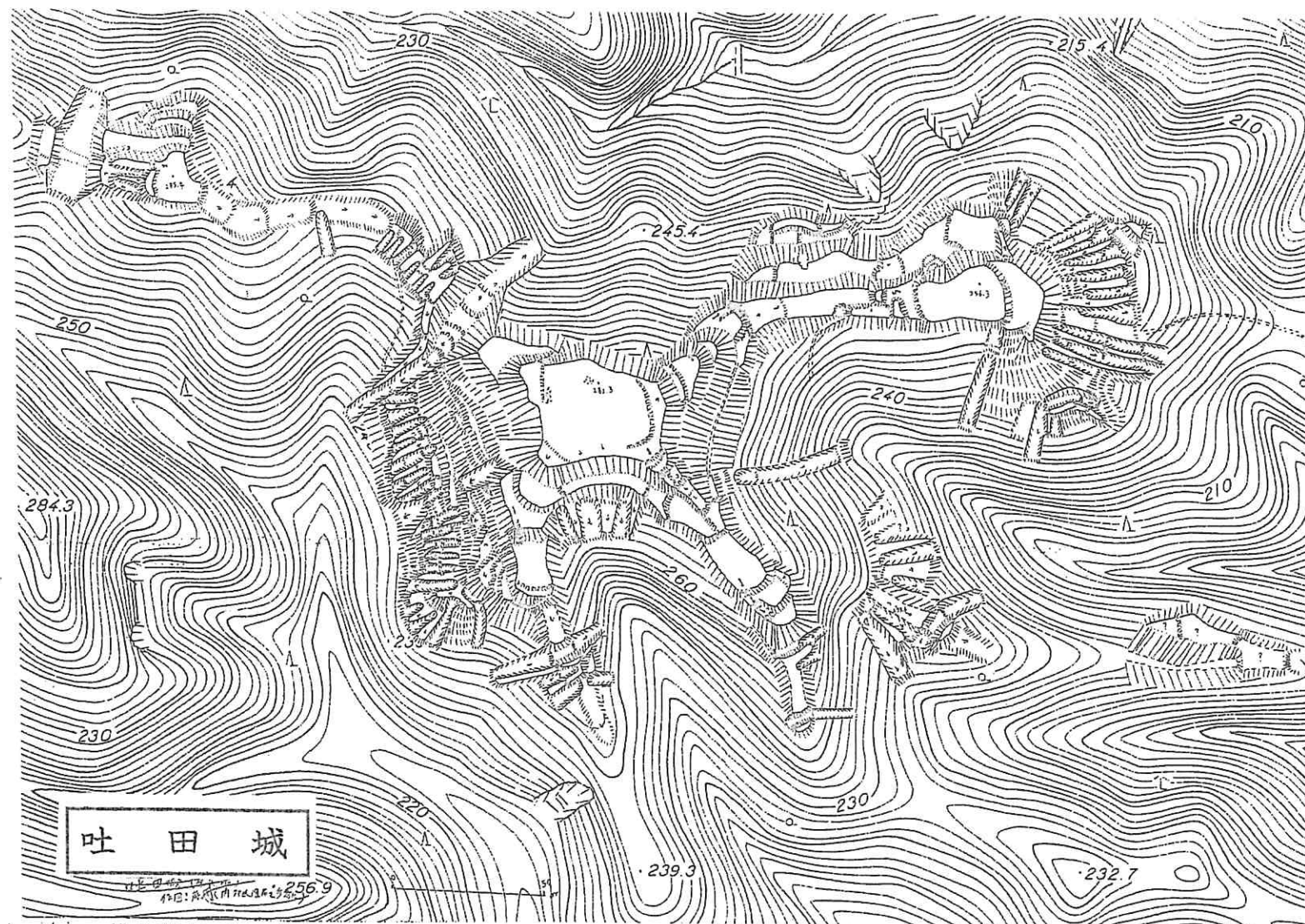


大和 橿原山城跡 (奈良県御所市) 1998. 12. 6, 12. 29
 1999. 1. 10
 調査: 斎藤成計・中西福樹 藤原
 作図: 藤原 英弘



橿原平城





B) 檜原氏と吐田氏の勢力形成

1) 檜原氏の勢力基盤

◎興福寺大乘院門跡方の国民。

◎大和六党の一つ「南党(葛上党)の刀禰(盟主) → 春日若宮祭礼の流鏑馬願主(五年ごと)

吐田・豊田が願主人を務める(延徳三年(1491))。糯田(持田)・室・稻屋戸・柄坂氏

※戌亥脇(筒井)・散在(越智)・長川(箸尾)・長谷川(十市)・

平田(八庄官)・布施・高田・當麻・中村・岡・万歳など

文安四年閏二月十三日条(経覚私要抄)~1447年

檜原永遠以一族長澤、昨日折以下畏悦之由申之、以木阿懇申給、還為痛之由仰了、

文明七年二月廿日条(尋尊大僧正記)~1475年

一、檜原代官鍛冶屋参申、先日舍利礼云々、

文明七年五月二日条(尋尊大僧正記)~1475年

寄手大勢云々、檜原方甲七百余在之、

◎大和永享の乱(永享元(1429)~十二(1440)年)による越智氏没落で、遺跡拝領~越智檜原も、一年余で奪還される(河内守護畠山氏が関与)。→ 筒井党に接近する素地!

◎私反(段)銭の勃興・・・

若宮祭礼の反銭賦課とは異なり、国人の領域形成につながる反銭賦課(→国人郷)

興福寺の諸役賦課単位が崩れていく!

越智・十市・筒井・箸尾郷が古く、戦国期以降に諸国人の郷ができるとされるが、

檜原氏は古いのでは! ただし、天正四年(1576)以前には越智郷に編入!

寛正三年十二月十一日条(尋尊大僧正記)1462年

一、尺度庄・豊國庄反銭事、云田楽頭役分云當年、無故無沙汰也、仍以矢負等可催促旨、仰付檜原代官了、可申本人云々、

寛正五年正月廿五六日条(大乘院日記目録)~1464年

一、六方与國民檜原確執、依名字籠事也、國中私反銭為寺門停止之處、不承引故也、

延徳三年四月一日条(尋尊大僧正記)~1491年

一、浮説於河州正覚寺陣檜原遠景切腹云々、當國入峯事遅々腹立之故云々、生死未聞云々、當國中私反銭事、切初事檜原本願也、蒙神罰者也、

◎多様な活動・・・矢木(八木)座衆の被官化。

文明元年十二月廿六日条(尋尊大僧正記)~1469年

一、矢木中買衆与符坂本座衆相論事在之、自矢木座荷共押留之、応永十二年咄文在之間、十市・檜原・箸尾方ニ仰遣之、矢木座衆彼面々被官故也、各相尋可申入云々、先日成奉書、今日返事到来、

◎一向宗道場の建設 ~失敗

永禄十二年五月十八日条(多聞)~1569年

一、檜原より御所一向衆導場付籠名之處、今度從松少破候間、出名事申上了、

永禄十二年七月十八日条(多聞)~1569年

一、檜原御所庄ニ一向衆導場始立之間、曲事旨被申届、則先年籠名、今度種々令懇望彼堂舎破却、一昨日十六日、專当二人・仕丁五人・神人廿人被召下檢知畢、於自身者重而郷内ニ不可立之通咄文又沙汰了之、則今日辰刻出名了、以次万歳郷マミ山ノ導場モ破却之間、神法(宝)フリ了、不慮寺門如本意成下、万事神慮次第奉憑迄也

2) 吐田氏の勢力基盤・・・

◎檜原氏と同様に鎌倉・南北朝期から活動も、活発な動き見えず・・・檜原氏に雌伏か!

◎吐田庄の実質的経営・・・吐田郷の形成へ(檜原氏からの自立を目指す)

↳ 檜原勢力圏の浸食 居館周辺を領域化~拡大を図る! 檜原氏との対立は不可避!

↳ 越智党に接近

◎領域を拡大しつつ地侍を被官化。 一方で同名中形成か?

↳ 文安六年二月十六日条(経覚私要抄)~1449年 十市氏退治にあたり動員

「吐田豊田侍七人・矢負三人、都合十人、布施衆竹本大木若党一人・侍分三人、其外地下者數輩云々」

永禄十年九月五日条(多聞)~1567年

幸田ノ城へ取詰、寄衆仕損、吐田ノ内持田・【井中間一人】梅田兩人、

C) 檜原氏と吐田氏の抗争・・・

【大和の抗争史・・・略年表】

建武2年(1335) 後醍醐天皇の吉野潜幸(南朝)

応永10年(1402) 越智氏と十市氏が合戦。~応永21。幕府による私戦停止。衆徒・国民直参化。

永享元年(1429) 大和永享の乱(4年から越智氏討伐)~永享11。南北合戦、越智氏没落。

嘉吉元年(1441) ~筒井氏の内紛。大和国人が経覚派と筒井派に分裂。経覚の逃亡(安位寺)。

享徳4年(1455) 畠山徳本(持国)の死去で畠山氏が二派に分裂していく(義就流・政長流へ)

長禄4年(1460) 足利義政が畠山義就の追討を興福寺・大和国人に命じる。

寛正元年(1460) 畠山合戦(河内)畠山義就と政長・幕府軍が合戦。寛正2、没落し紀州→天川へ。

文正元年(1466) 畠山義就が壺阪寺に出頭。越智党が義就方となる。以後筒井党と長期抗争。

明応2年(1493) 越智氏全盛。 畠山政長、明応の政変で自刃。

明応6年(1497) 牢人していた筒井氏ら大和に入国を果たす。越智党退潮・没落へ。

明応8年(1499) 細川政元の武将、赤澤宗益(澤蔵軒)が大和を攻撃。 大和国人和睦の動きへ。

永正元年(1504) 両畠山氏の和睦の動き。尚順と義英の会合。

永正3年(1506) 赤澤宗益らの大和再侵攻。 国人一揆の結成。~永正5年。

将軍義尹と前将軍義澄方の抗争は継続。

永正17年(1520) 細川高国=筒井党と細川澄元=越智党の抗争激化。2度目の国人一揆へ。

大永2年(1522) 細川高国・足利義晴と将軍義植の対立により淡路へ。義晴将軍に。

享禄元年(1528) 細川氏の武将・柳本賢治が大和に侵攻する。 木澤長政の台頭。

天文5年(1536) 木澤長政の大和侵攻。 信貴山城の拠点化。 越智氏や布施氏を討伐。

天文11年(1542) 木澤長政が戦死。

永禄2年(1559) 松永久秀が大和に侵入し、筒井らを攻める。

永禄10年(1567) 東大寺大仏殿焼ける。

永禄11年(1568) 織田信長が足利義昭を奉じて入京する。 松永久秀の大和進退。

元龜2年(1571) 辰市合戦。

天正2年(1574) 筒井順慶、織田信長の傘下に入る。

1) 檜原氏の筒井党化と吐田氏の越智党化

延文二年十月廿五日条(大乘院日記目録)~1357年

實玄禅師引率良玄禅師并越智伊豆守・吐田兵衛尉・綺春定等乱入禅定院、數百个所焼拂之了、印覺隆円・頼乗等所為也、

永享四年十一月廿七日条(大乘院日記目録)~1432年

大和國民為越智治罰赤松勢下向、条々緩怠子細成身院光宣法師申立故也、

永享十二年五月十九日条(大乘院日記目録)~1440年

於檜原所十市自害、

永享十二年六月二日条(大乘院日記目録)~1440年

武田以下和州悉以帰京、越智引汲輩大略被失之、越智違(遺)跡事檜原拝領之了、号越智、

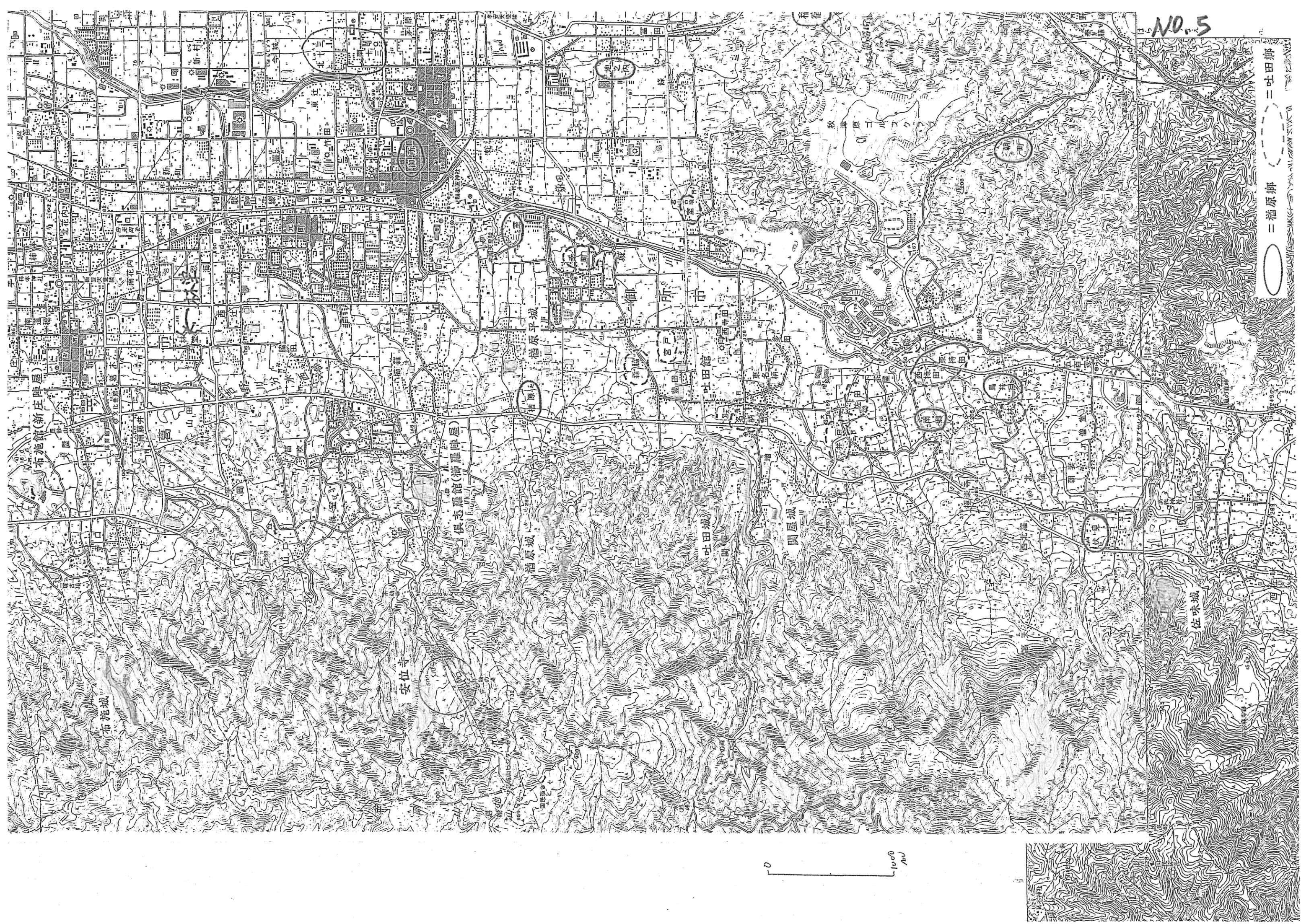
永享十三年七月十四日条(大乘院日記目録)~1441年

故越智息出頭蜂起、申合河内國畠山徳本云々、當越智檜原、在所仁押寄合戦没落了、此外御罪科之衆徒・國民等罷出者也、

★檜原氏と吐田氏は筒井、越智党に別れ抗争。 文明三年閏八月四日条(尋尊大僧正記)~1471年

布施方ハ箸尾・檜原・俱志羅・十市・筒井・前高田、

越智方ハ万歳・八田・飯高・古市・吐田・小泉・當高田、



2) 抗争勃発・・・没落する檜原氏～その行方とは 前半は在地での活動が希薄。

文明七年五月二日条(尋尊大僧正記)～1475 年

吐田与檜原今日始合戦、為責檜原、越智・古市兩人罷入俱志羅之城云々、寄手大勢云々、檜原方甲七百余在之、河内・紀州勢共合力云々、筒井為木津用心陣取大安寺了、仍山陵没落了、比興事也、去月十六日より出来題目也、十市・越智兩人申合、兩人教訓處、檜原八十市ニ申ニ随了、吐田ハ越智雖申不承引云々、無力両方ニ引分合力云々、□□□□□令出陣、吐田・越智兩人ニ申勸云々、

文明七年六月八日条(大乘院日記目録)～1495 年

布施与万歳合戦、布施方打負、福住并箸尾一族中以下數輩打死、惣而四百余人被打殺了、大略筒井被官人共也、檜原没落了、四月十六日より對陣也、自吐田方神社焼拂之云々、

文明七年九月朔日条(尋尊大僧正記)～1495 年

一、筒井・檜原以下率人勢入部福住館了、此間山田可知行支度云々、可及合戦歟如何、

文明十年三月晦日条(尋尊大僧正記)～1478 年

一、箸尾・檜原等自京都罷下、御勢仕等事申合了、左衛門督不可得旨返事故各退屈云々、成身院永在京、是又計會不可然間、早々可下向旨自左衛門督方念比ニ雖令入魂、猶以在京、如何様一勢申請可罷下旨所望之、不可得事也、其上者在京可為所存之由返答云々、成身院計會非凡儀云々、每事相替□法印之進退、天下又非其時分姿、旁以成身院・筒井之振舞大事々々、

文明十一年十一月三日条(尋尊大僧正記)～1479 年

一、来廿七日祭礼事可有始行旨、願主人方以下自學侶相觸之云々、河内勢可有発向之由、為實説者且如何、十市ハ止合戦引籠山内了、筒井ハ福住引籠、内者共不合期不和也云々、檜原・箸尾同所ニ在之云々、(中略)伊勢国司伊賀宇多郡衆相率同可発向云々、難義不可過之、河内守護伊勢国司親子分也、依之自他申合云々、

文明十二年五月廿七日条(尋尊大僧正記)～1480 年

一、祭礼行列次第昨夕別會五師進之、使者中綱、寺務同進之、馬長頭興基權大僧都・別會宗算權少都・光守權少都・覺専大法師・實胤、、、流鏑馬平田・高田也、葛上・吐田也、散在・大西、同・三輪河合、

文明十九年五月晦日条(尋尊大僧正記)～1487 年

一、衆徒・国民共各蒙御罰之處、猶以不及此覚悟条以外次第ナリ、
布施没落ハ文正元年丙戌 成當年三十二年了、此内父ハ入滅、
檜原没落ハ文明七年乙未 成當年十三年了、
筒井没落ハ同九年丁酉 成當年十一年、一族一類共悉以没落、

3) 戦国期の檜原氏と吐田氏

◎檜原氏が復歸し、吐田氏が次第に劣勢になるも、檜原氏は越智氏与党に。

明応六年十一月十八日条(尋尊大僧正記)～1497 年

一、河内國事畠山少弼・遊佐・誉田・平以下打入、尾帳守俄高屋城ニ入、一国之儀蜂起珍事處、紀州勢共出向之間、少弼又退了、於于今者不可有殊事云々、誉田・平令参尾帳守方、遊佐代官服之頸取之参申云々、隨當國衆共蜂起之處、如此成下之間、皆以引退了、檜原・吐田等迷惑、河州ニ落行、又立帰、十市方一族以下數十人打殺、迷惑余ニ私反錢不可切旨、寺門ニ申送云々、神慮也、

明応八年十月廿六日条(尋尊大僧正記)～1499 年

明禪来、此間在河州、此一兩日帰寺云々、當國越智・十市・筒井・成身院・檜原以下三十余人申合和撰(睦)、自他河州事不可合力、當國分ニテ如元可有之云々、珍重事也、此申合ニハ古市除之、各別ニ計略云々、定而可為無為者也、

明応八年十二月十九日条(尋尊大僧正記)～1499 年

昨日申剋合戦、宗益手切勝了、越昇寺・秋篠・宝来打負了、(中略)古市ハ宗益之手数千人引率入奈良中之間、院家・増(僧)坊・寺中・寺外無殘所乱入、物取共數万人不知其數云々、(中略)成身院律師・筒井・豊田・番条・十市・檜原以下落了、國中所々焼了、両方打死輩共濟々在之、

永正二年十二月十九日条(多聞院日記)～1505 年

一、子細者自京都河内へ付御勢(被脱力)遣京衆大和路へ宗益大将而可越云々、此段寺門而武家衆當國お不通様ニ可預計略由、以連判披露在之、

連判衆

布施 箸尾 越智 万歳 吐田 檜原 片岡 筒井 十市 以上



永正四年九月十五日条(多聞院日記)～1507 年

今日十市・箸尾次郎為奈良防禦上洛了、自前筒井与力衆少々被陳取畢、

一、十市西御門堂、箸尾宿院堂、檜原内侍原堂、

永正四年十月十八日条(多聞院日記)～1507 年

今日京衆般若寺口詰了、古市・狭川・木津・狛・靱井五頭自梅谷平野邊出了、大手者四人衆赤澤・内堀神八郎。三好越後守・丹波五人衆差懸了、東大寺之内へ入、手搔門へ出之間、善鐘寺御(口カ)衆不及鐘合迹了、十市・箸尾・檜原・成身院・筒井与力衆少々悉以没落了、則京勢奈良へ入了、

永正四年十一月四日条(多聞院日記)～1507 年

一、大和國衆十市河内太子、箸尾塙、筒井・成身院高尾、越智下淵近所、檜原トチハラ、布施吉野云々、

天文十二年九月廿三日条(多聞院日記)～1543 年

一、去十六・七日之比歟、越智ヨリ舎弟猶原殿生涯了、事之子細シラス、久敷越智ノ儀ハ籠名ナレ共不能詫言ニ、併如此儀モ神罰歟、家ノ不齋不可過之

永禄二年六月廿九日条(享天)～1559 年

越智方ヨリ檜原殿ヲ大将トシテ、箸尾城ヲ堅固ニ持、ヒロセ衆各越智へ同心、迎田金対寺殿一同也、新三ハ郡山向井殿方也、

永禄十年九月四日条(多聞)～1567 年

一、吐田郷少々放火、根来衆入歟ト消肝了、

永禄十年九月五日条(多聞)～1567 年

今朝早旦より風ノ森峠越ニ根来衆・屋形(畠山高政)衆三千ほとにて打入、【サヒノ】幸田ノ城へ取詰、寄衆仕損、吐田ノ内持田・【井中間一人】梅田兩人、根来ノ【吐田ノ南ニアル歟】蓮花谷円明院【ハリキリ】右京ト申者、以上首四ツ討取、手負七・八十ほと在之、散々ニ追散シ、寄衆イトノ郡迄引退了、今ノ分ハ不可有殊儀歟、

永禄十二年四月廿七日条(二条)

河内衆南陣引取由はんた跡しき關所ニ城州より岡へ被出を存分申引取由、細井戸市ばにて廿五日ニ手負出来由、あしがる坊八郎むねをてつほうにていさせ申よし。(中略)

元龜二年十二月廿一日条(尋憲記)～1571 年

一、筒井ヨリ寛舜罷帰候、順慶ハ十市平城表へ出陣之由也、本陣大豆越進上之、人数五千余有之由也、布施、萬歳、檜原、井戸、窪庄、番条、楊本、福智堂、其外諸寄力悉出陣也、十市方よりも、本城之外四ツ出城堅固之由也、

天正九年六月三日条(多聞)～1581 年

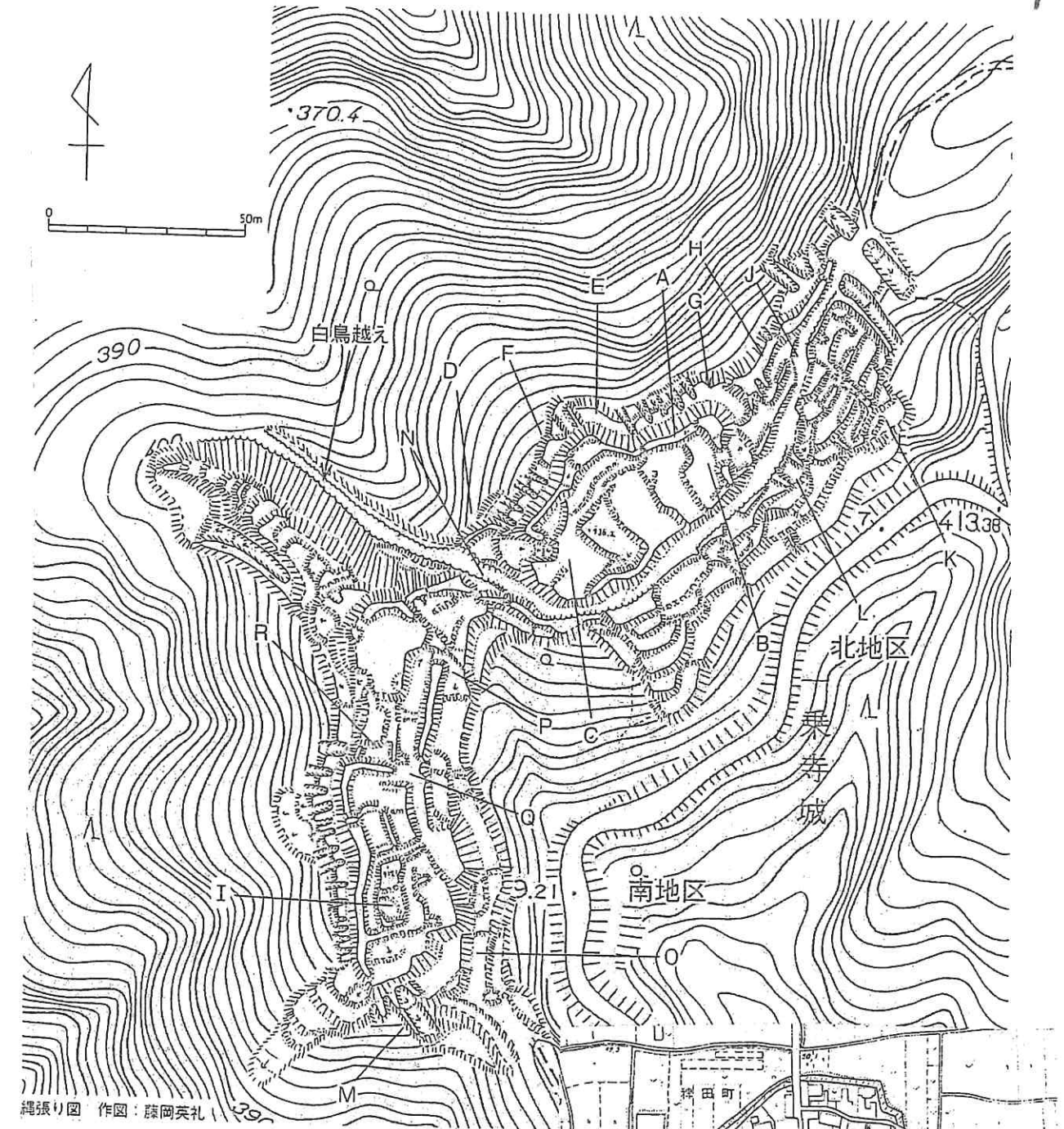
一、於郡山吐田生害了、知足坊道具尋ニ使入、坊主ハ先逃了、無殊儀但いかゝ、近日国中之滅亡、嗚呼々々、無端事共也、

天正十年六月十四日条(多聞)～1582 年

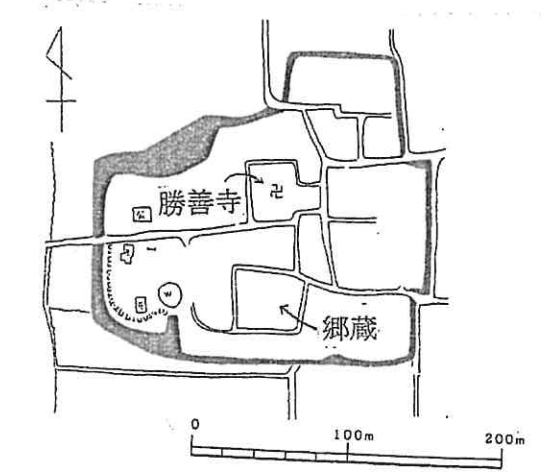
一、檜嶋井若裏順慶へ渡トテ、今朝井戸重郎一手ノ衆從早旦出了并南方越智・檜原・万歳以下悉以立了、明日順慶ハ可有出京之由沙汰在之、勝軍比量古抄ニ帖長賢房写来了、

4) 檜原氏と吐田氏の様相

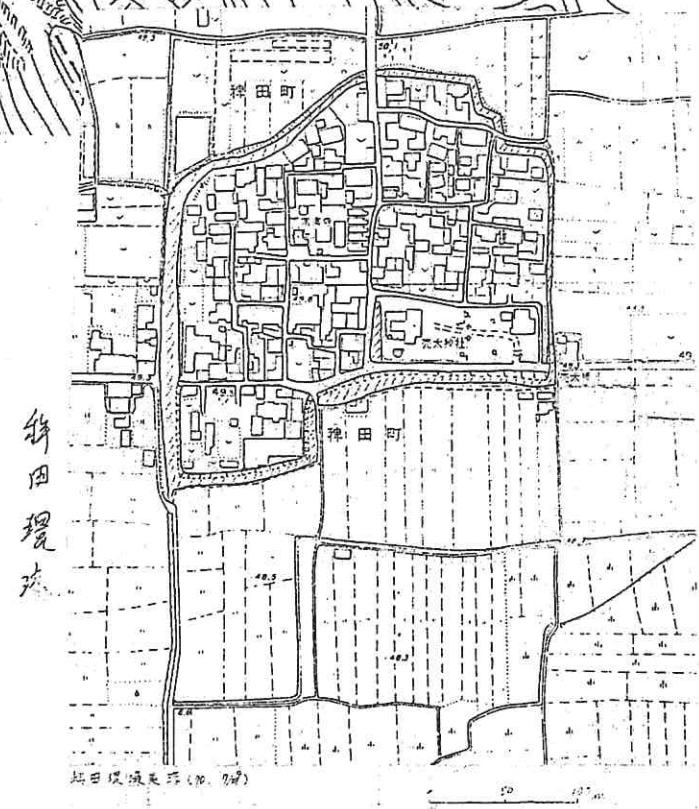
- ◎国境地帯の国人勢力だが、領域支配は不徹底で、合戦時に没落と復歸を繰り返す。
- ◎守護権力や最有力の国人(筒井氏・越智氏)に結び付くが、鷹山氏(生駒市)や林堂(葛城市)のような被官的な動きはなさそう・・・有力国人の自立性。
- ◎合戦時に必ず援軍が来る。
 - ↳ 地域勢力の限界と、広い関係性。



一糸野城



勝善寺



勝善寺

D) 檜原城と吐田城の築城・改修を考えるために・・・

1) 室町期の城郭運用。

文正元年八月廿一日条(経覚私要抄)～1466年

去十九日越智弾正忠自身罷出、河州へノ路水越ト云在所ヲ廣作云々、右衛門佐可罷出用意坎、安位寺者説也云々、布施(行種)・高田事外怖畏云々、又右衛門佐ハ伏見(葛上郡)・高間ニ可取陣坎、吐田方へ可相意得之由自越智申遣云々、是彼者説也、

文安四年十月十九日条(経覚私要抄)～1447年

夜前布施(行種)寄高田合戦、五重木戸四重切落、然而後攻馳合之間、不叶引退了、手負以下數十人在之、深樂堂塔焼之引退云々、

長祿四年九月廿日条(大乘院日記目録)～1460年

畠山右衛門佐義就、失面目下向河内國、則閉籠嶽山城畢、為責手諸大名并弥二郎政長出陣、

寛正四年三月十八日条(経覚私要抄)～1463年

去十四日為嶽山退治、光宣法印為檜原於案内者、葛木ノ國見嶽(葛上郡)ト申所へ取上間、越智事外令仰天、地下在家等ニハ悉物ヲ隠者也、以外馳走云々、取乱トハ此事申之由相語者也、是ハ嶽山ト越智トノ間ヲ通路サセシト云心中也、ただし、国見嶽では城郭遺構は存在せず！

寛正四年四月十六日条(経覚私要抄)～1463年

早旦覺朝申云、嶽山城自焼為之落上之由申之云々、相次自行実方申云、於城者無煩落了、右衛門佐義就不知行方罷成云々、

文正元年九月五日条(経覚私要抄)～1466年 吉野に没落した義就が越智氏に迎えられ、壺阪寺を發す。

勝觀語云、右衛門佐(畠山義就)二日前夜九時分壺阪ヲ立テ、千破屋城ノ間ヲ通テ下着金胎寺、其通以外之難所也、水越猶北ニ近令怖畏不罷通坎、押子形(烏帽子型形)城并嶽山物ナシニ沙汰之間、甲斐庄谷以下土一揆大略隨所勘云々、但西林寺ニ少弼(畠山政長)方者國人以下集居之間、於此所可有一合戦坎云々、両城互ホジ形、嶽山、無甲斐落城降人之間、北方事モ不審由有沙汰云々、

文正元年九月廿六日条(経覚私要抄)～1466年 二上山城が登場する。

一、今日者國中不焼云々、布施・高田城者未落之由申之、
一、万歳ヨリ又語来云々、其説ハ、右衛門佐ハ廣川へ入テ取陣云々、被官人ヲ大都布陀上山(二上山)へ上テ置之由申云々、(中略)

文正元年九月廿七日条(経覚私要抄)～1466年

勝觀房自陣帰来云、右衛門佐ハ布施上山取上テ取陣、一昨日ハ越智布施郷へ入テ雖(衍カ)責損候て、やかて引帰テ、根成柿ノ邊ノ我領内ニ陣ヲ取云々、布施ハ甲六七百ニテ立籠云々、

文正元年十月十七日条(経覚私要抄)～1466年

今日実説聞了、昨日午刻計ニ、不謂侍分者、柴一束ト手楯ト持テ、長具足ヲハ不可持之由下知之間、隨其儀之處、柴ヲハ堀ニナケ入、數百人人数之間、無程堀ヲウメテ、布施ノ構城衆ノアル所へ馳入之間、不堪而具足ヲ不及懸合之間、其マハ布施カ城エモミ入之間、不叶シテ落了、仍コミ入衆火ヲ立ヲ見テ、越智ノ衆又ツメ合之間、布施方ニハ金剛寺・福塚父子(衍・はびこる)被打畢、其外死者不分明云々、

文明三年八月廿七日条(経覚私要抄)～1471年

一、今日布施・高田本館罷出云々、仍越智(家榮)方押寄布施郷内放火大焼云々、始終之儀如何、但高田者○不入本館、布施同所在之、甲貳百計在之、

文明三年八月廿八日条(経覚私要抄)～1471年 布施氏は上山に入っているのか？

一、古市出陣、為万歳(満阿)合力也、畑同罷出了、知音方様少々申之、古市同道云々、(中略)
一、自陣申送云、布施者上山ニ自身ハ陣取候、手物共ヲ三壺・細井戸邊へ出之之間、越智・万歳勢合戦ヲ沙汰之間、打負候テ、如元其勢ハ引上候間、布施領内悉焼拂、苅田ヲ沙汰畢、先以目出之由申云々、

文明三年閏八月六日条(尊尊大僧正記)～1471年 河内へ引退く布施氏・・・城から直接落ちる！

一、布施今朝七時分陣拂、河内エ引退了、希有次第也、則古市以下帰陣了、

2) 戦国期の城郭運用。

天文十一年三月十八日条(多聞院日記)～1542年 戦国期になると、小城でも千を超える兵力動員で攻囲。

一、信貴城ハ昨夜六打之前ヨリ及暁天悉以焼了、尾上城モ四打之過ヨリ悉焼了、福智堂ノ城ハ人数千五百計ニテ取廻シテ置間、不得相離ヲヲ、今ニ責之云々、

天文十五年十月十日条(多聞院日記)～1546年 城番的な存在が恒常化。国人の拠点性が否定。

貝吹之城アツカキ柵ニテ退散了、則跡へ嘉幡殿・高田殿・八條以下五頭入置テ、順昭陳拂シテ被帰城了、諸勢悉以引退了、天然之仕合前生ノ戒行歟、一國悉以帰伏了、筒井ノ家始テヨリ如此例ナシト云々、

弘治元年十二月十二日条(多聞)～1555年

同日、高田城へ何方ヨリトモナク廿余人辰辰ノ過ニ朝コミニ打入、家城悉放火、入衆十三人打死了、高田父子無比類働云々、大路堂富貴之處、悉以近郷之悪党乱入、資材奪取同放火、時刻到来歟、物取五十余人切殺云々、曾我高田方ヨリ諸方悪党ヲカタラキ如此云々、

永祿二年八月六日条(享天)～1559年 平城と山ノ城の連携

筒井平城落ル、山ノ城へ上ルハ、

永祿八年十一月十八日条(多聞)～1565年 筒井氏当主が国人拠点に。縄張りが変化・拡大する要因。

筒井六郎殿布施城へ被入了、国中心替衆数多在之云々、

永祿八年十一月十九日条(享天)～1565年

筒井殿、布施殿ノ城へ御入アル由也、細井戸南郷殿御同心、

永祿十年六月十八日条(多聞)～1567年 城衆と国人衆の合体・・・進む城郭運用！

昨夜ヨリ筒井郷椎木・小泉ノ当リ今朝迄放火了、信貴城衆箸尾衆と手を合て働歟、此陣ニハ無痛者也、

永祿十一年十月一日条(多聞)～1568年

昨日高田城ノ責衆布方(布施方)悉以退散了、從上意様十市・箸尾へ被成御下知被追払了、十(兵脱力)之儀將軍付、近日噉ニ新縫助參之間其調歟、大慶不及是非者也、但雑説ハ不知、

永祿十一年十月九日条(多聞)～1568年

七上了、昨夕筒井ノ平城退了、今朝早々松右被打出了、高田殿多聞山へ礼ニ被上了、四年ほと籠城、布施ヨリ廻ニ二十三押ノ城、惣ノマワリニ堀ヲ二重ホリ、モカリヲユキ廻テ、二間・三間ニナルコヲ懸テキヒシク責了、雖然是ニ不落して開名了、一身ノ面目也、

元龜二年八月七日条(多聞)～1571年

一、昨日筒井平城、高田山田モツ、(ママ)ノカキト古市モツ、番原(条カ)田中奥田モツ、森屋藏堂以下渡了、
一、高田出城ヲ布施ヨリ責(責)落、四十余討取落居ト云々、世上一時ニ没落了、

元龜二年十二月廿一日条(尋憲記)～1571年

一、筒井ヨリ寛舜罷帰候、順慶ハ十市平城表へ出陣之由也、本陣大豆越進上之、人数五千余有之由也、布施、萬歳、檜原、井戸、窪庄、番条、楊本、福智堂、其外諸寄力悉出陣也、十市方よりも、本城之外四ツ出城堅固之由也、

まとめ・・・

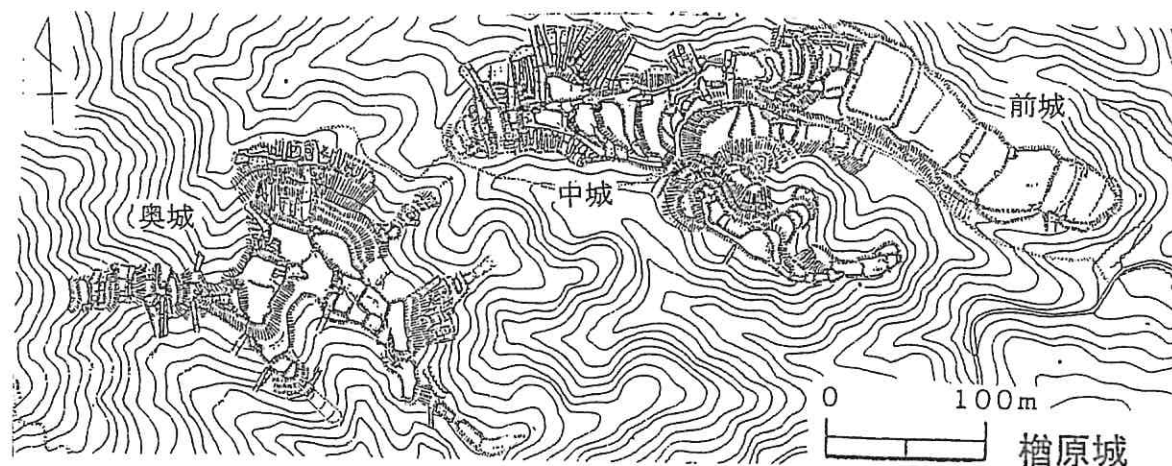
◎築城時期と改修時期

◎築城主体の存在の薄さと、外部勢力の城郭運用。

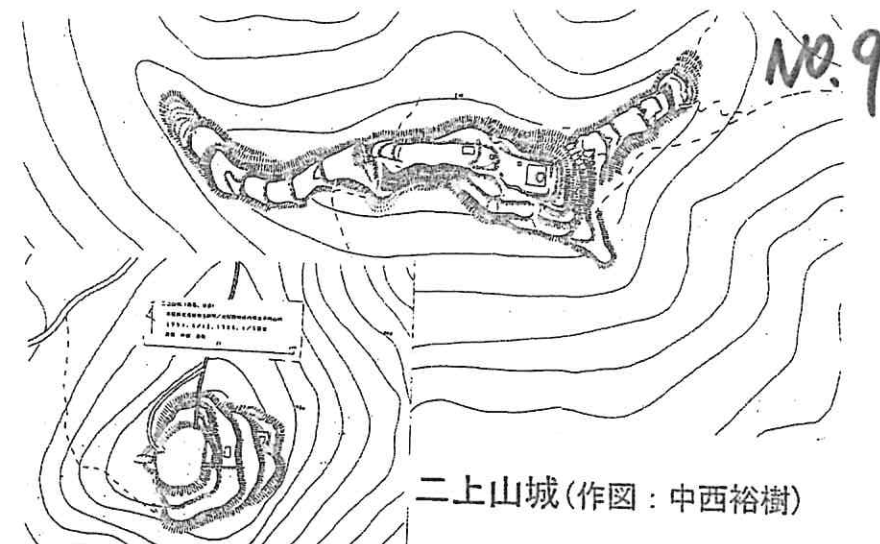
◎長大な畝状空堀群から短い畝状空堀群へ。怖い防禦ライン。

◎後背施設の無実化！

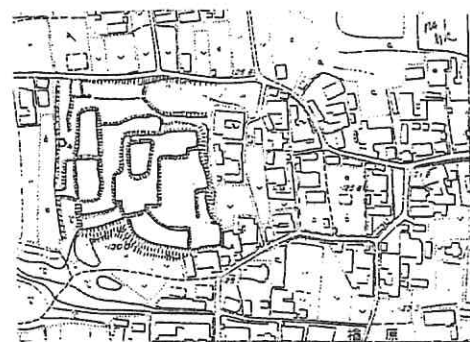
主要城郭 大きさ比較 1/5000



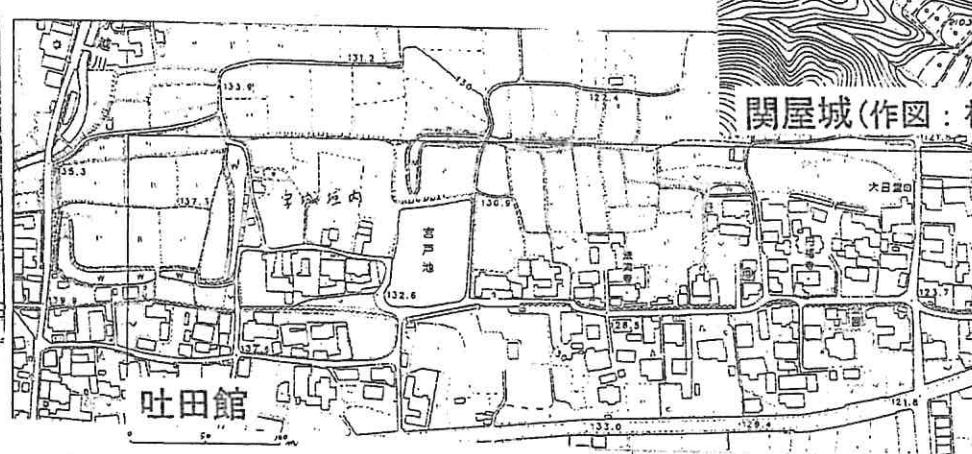
吐田城



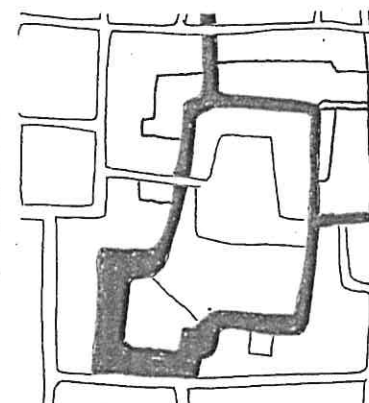
二上山城(作図: 中西裕樹)



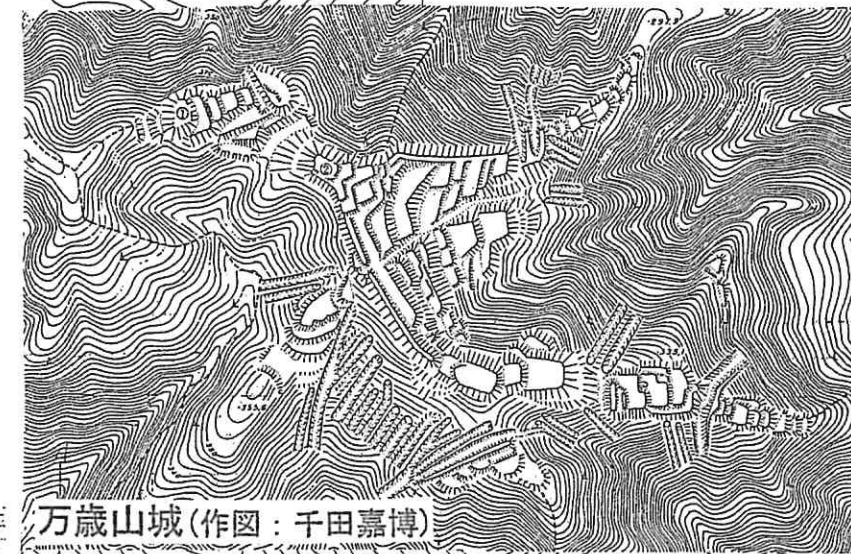
櫓原平城



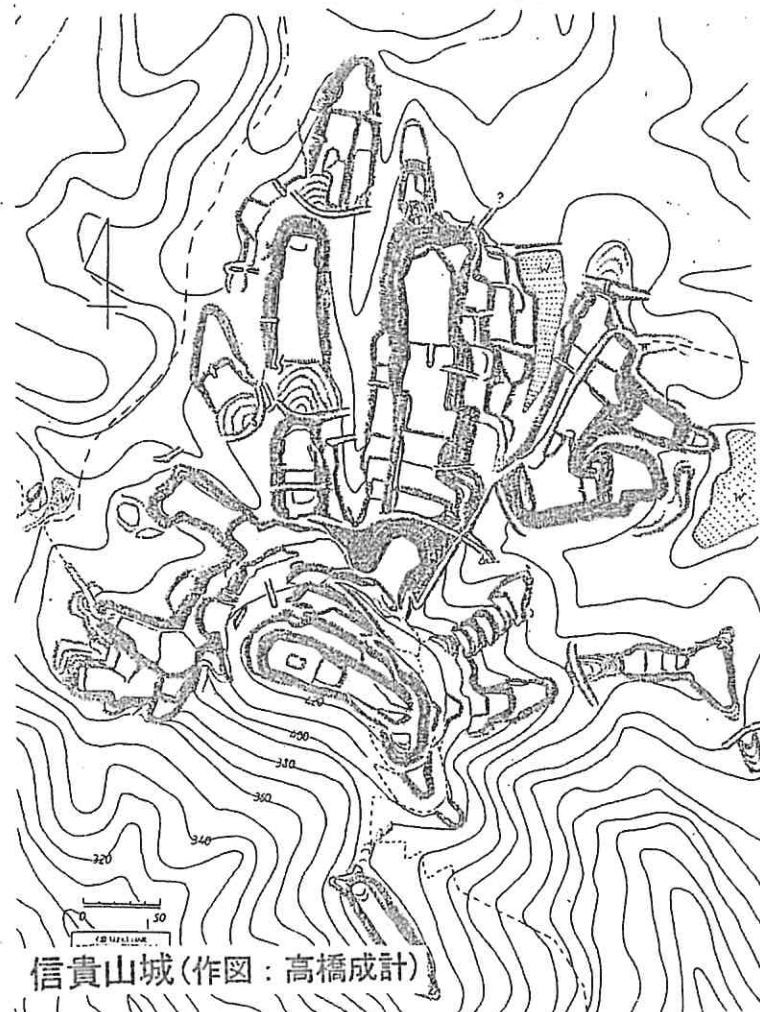
関屋城(作図: 村田修三・藤岡)



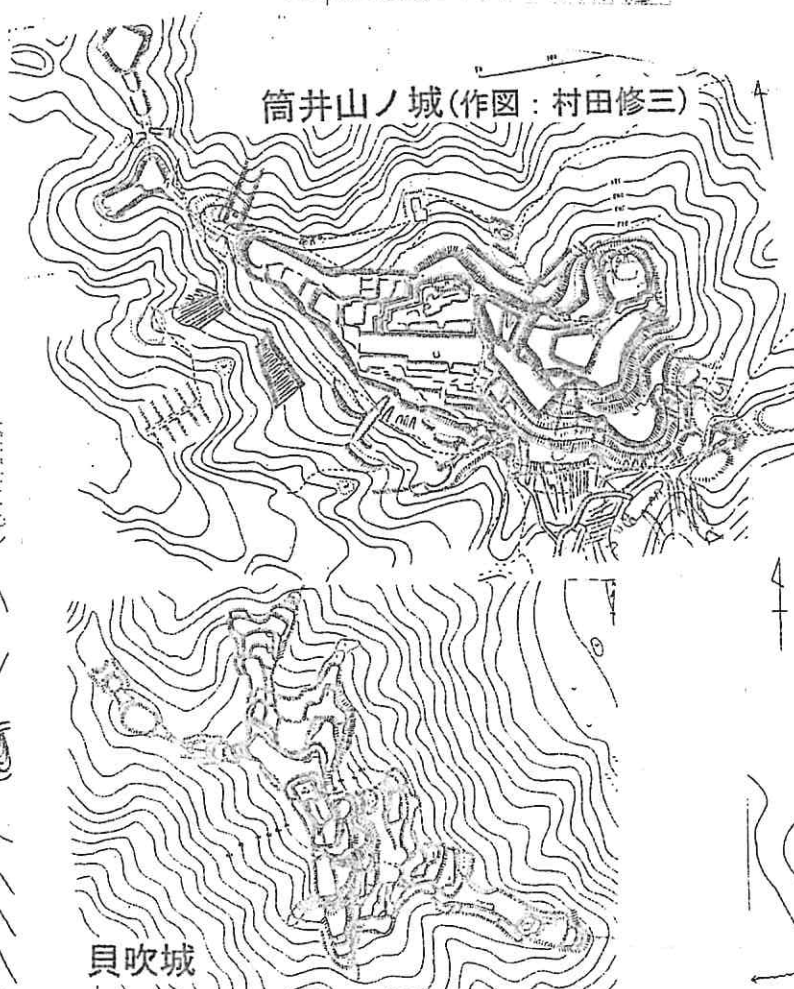
箸尾城 (箸尾館部分)



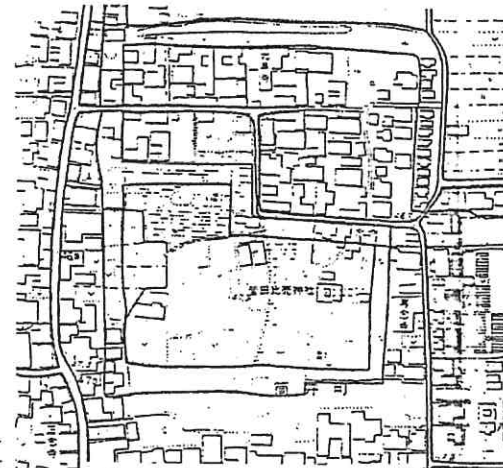
万歳山城(作図: 千田嘉博)



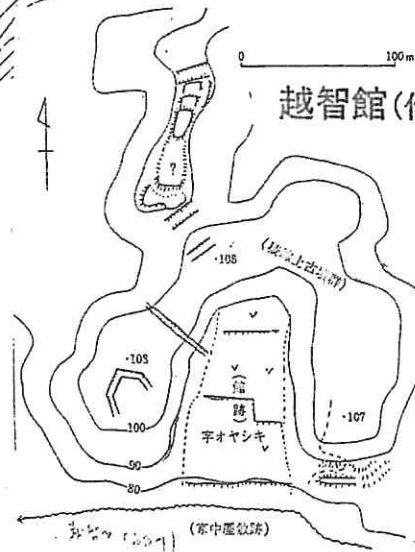
信貴山城(作図: 高橋成計)



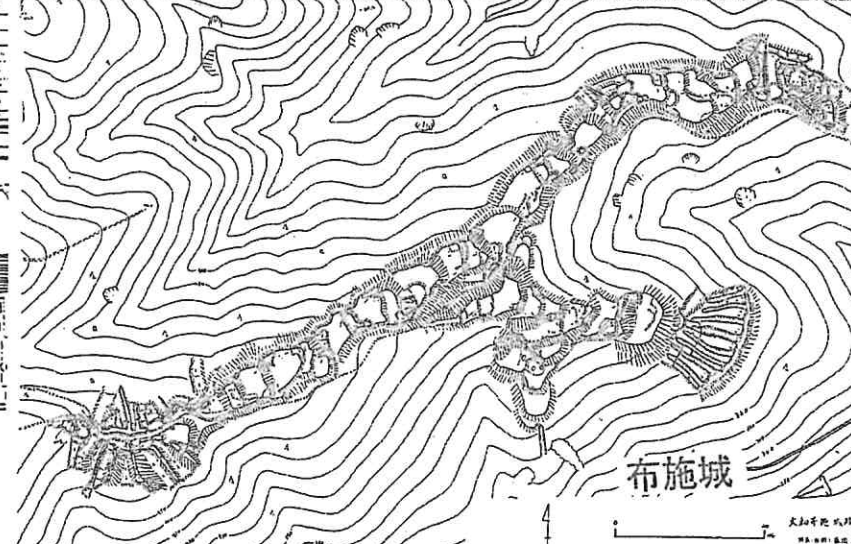
貝吹城



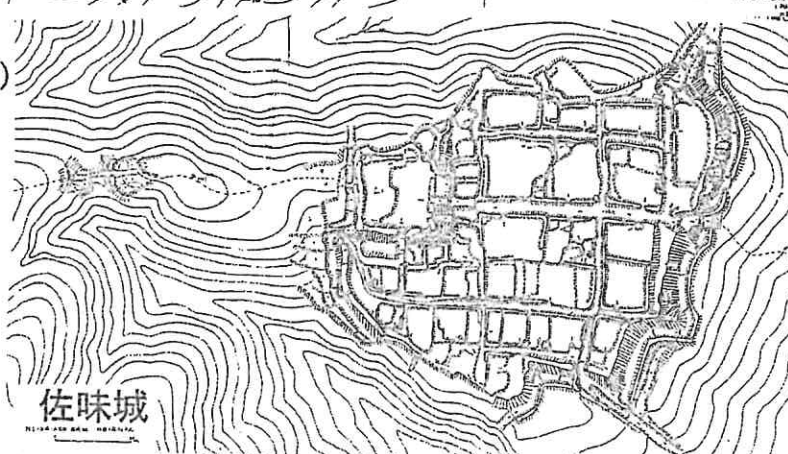
筒井平城(筒井館部分)



越智館(作図: 村田修三)



布施城



佐味城